

## 「個人向け国債」の商品性の比較

コクサイ先生



| 商品名         | 変動金利型10年満期<br>変動10   | 固定金利型5年満期<br>固定5                     | 固定金利型3年満期<br>固定3                     |
|-------------|--|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 特徴          | 実勢金利に応じて半年毎に適用利率が変わるため、受取利息が増えることもある。                              | 満期まで利率が変わらないので、発行した時点で投資結果を知ることができる。 | 満期まで利率が変わらないので、発行した時点で投資結果を知ることができる。 |
| 満期          | 10年  | 5年                                   | 3年                                   |
| 金利タイプ       | 変動金利   | 固定金利                                 | 固定金利                                 |
| 金利設定方法※1    | 基準金利×0.66※2  | 基準金利-0.05%※3                         | 基準金利-0.03%※3                         |
| 金利の下限       | 0.05% (年率)   |                                      |                                      |
| 利子の受け取り     | 半年毎に年2回  |                                      |                                      |
| 購入単価 (販売価格) | 最低1万円から1万円単位 (額面金額100円につき100円)                                     |                                      |                                      |
| 償還金額        | 額面金額100円につき100円 (中途換金時と同じ)   |                                      |                                      |
| 中途換金        | 発行後1年経過すれば、いつでも中途換金が可能※4<br>直前2回分の各利子 (税引前) 相当額×0.79685が差し引かれます。※5 |                                      |                                      |
| 発行月 (発行頻度)  | 毎月 (年12回)  |                                      |                                      |

※1 国債の利子は、受取時に20.315%分の税金が差し引かれます。ただし「障害者などの非課税貯蓄制度 (いわゆるマル優・特別マル優)」の適用を受け、非課税とすることができます。この制度については、税務署などにお問い合わせください。※2 基準金利は、利子計算期間開始日の前月までの最後に行われた10年固定付国債の入札 (初回利子については募集期間開始日までの最後に行われた入札) における平均落札利回り。※3 基準金利は、募集期間開始日の2営業日前において、市場実勢利回りを基に計算した期間5年または3年の固定付国債の想定利回り。※4 中途換金の特別：災害救助法の適用対象となった大規模な自然災害により被害を受けた場合、又は保有者本人が亡くなった場合には、上記の期間に関わらず中途換金できます。※5 直前2回分の各利子 (税引前) 相当額に0.79685を乗じているのは、国債の利子の受取時に20.315%分の税金が差し引かれているためです。

「個人向け国債」は毎月発行され、1万円から購入可能だ。しかも証券会社だけでなく、銀行や郵便局などといった身近な金融機関でも買える。

**Point**  
デフォルトリスクが低く、元本割れしない点が「個人向け国債」の魅力です



安心な資産運用のための選択肢の1つとして、「個人向け国債」を検討してみようだろうか。

「個人向け国債」を毎月発行され、1万円から購入可能だ。しかも証券会社だけでなく、銀行や郵便局などといった身近な金融機関でも買える。

## 「個人向け国債」を組み込むなら? / 森永氏お勧めポートフォリオ

伝統的4資産を「4分の1ずつ」  
株式と債券とで「リスクを均等に」



「GPIFが20年4月より採用している国内債券、外国債券、国内株式、外国株式にそれぞれ25%ずつ投資する基本ポートフォリオを踏襲し、国内債券を「個人向け国債」に。資産運用ポートフォリオを初めて組む方にもお勧めです (森永氏)

「資産の75%を『個人向け国債』、残りの25%は、株式銘柄の分散効果が得られる株式インデックス投信で運用。株の価格変動リスクは債券に比べるとかなり大きいので、リスクを均等にするために『個人向け国債』の割合を大きくします (森永氏)

設定されている点などが大きな魅力です」と森永氏は語る。  
また、「個人向け国債」には「3年固定」「5年固定」「10年変動」の3種類がある。上の表に示したとおり、それぞれの特長や満期は異なり、投資目的やスタンスに合わせて選べるのも魅力だ。  
元本割れの心配がない「個人向け国債」をポートフォリオに組み入れれば、株価下落による資産の目減りを多少なりとも抑えることができる。「より安心な資産運用を求めるなら、株式一辺倒の投資よりも、『個人向け国債』など

を上手に組み入れ、バランスの取れた資産運用ポートフォリオを形成するのがお勧めです (森永氏)。

「インデックス投信のように、少しずつコツコツ増やせる手軽さがあるので、ポートフォリオも形成しやすいのではないのでしょうか」と森永氏は語る。  
具体的な資産運用ポートフォリオの例として森永氏が挙げたのが、上に示した2つだ。  
「1つは、GPIF (年金積立金管理運用独立行政法人) が採用している資産4分割法。どんな割合がいいのか悩む人は、この方法を真似てみるのもいいでしょう。もう1つは、株式を25%、『個人向け国債』を75%でポートフォリオを組む方法です。ねらいは、株式と『個人向け国債』のリスクを均等に近づけること。株式の価格変動リスクは大きく、『個人向け国債』を75%にしてもバランスが取れない場合さえありますが、安全性を追求するならお勧めです (森永氏)

ご相談やお求めはお近くの金融機関窓口へ。金利等の最新情報は財務省ホームページにてご確認ください。

[ご参考] 11月の金利は (すべて税引前)  
変動金利型10年満期 変動10 0.60%  
固定金利型5年満期 固定5 0.42%  
固定金利型3年満期 固定3 0.19%

個人向け国債  
JAPANESE GOVERNMENT BONDS

金利、発行スケジュールなど「個人向け国債」の詳しい情報は特設サイトで!



個人向け国債の 個子ちゃん



個人向け国債

財務省 <https://www.mof.go.jp/jgbs/individual/kojinmuke/>

経済アナリストの  
森永康平氏が  
解説!



株式会社マネネCEO / 経済アナリスト  
森永康平氏

証券会社や運用会社にアナリスト、ストラテジストとして日本の中小型株式や新興国経済のリーサー業務に従事。その後、アジア各国にて新規事業の立ち上げや法人設立を経験し、事業責任者やCEOを歴任。2018年6月、金融教育ベンチャーのマネネを創業。著書は「スタグフレーションの時代」(宝島社新書)など多数。

ポートフォリオのリスクを抑えるには  
幅広いアセットを視野に

# リスク管理の視点を持たれば、「個人向け国債」が選択肢に入る

社会情勢や経済情勢の不確実性が高まるなか、個人投資家の間で、より安心な金融商品である「個人向け国債」への注目度が高まっている。その特長と魅力、運用のポイントなどについて、経済アナリストの森永康平氏に聞いた。

**好調な株式相場がいつまでも続くとは限らない**  
コロナ禍や地政学リスクといった思いも寄らぬ事象が次々と発生するなど、社会情勢は不確実さを増している。それに伴って、経済情勢も大きく揺れ動いているのが昨今の状況だ。  
「代表的なのが、地政学リスクを主な原因の1つとする急激なインフレです。物価上昇に賃金の伸びが追いつかず、実質賃金はどんどん目減りしています。これまでは老後資金の確保が個人投資の重要テーマでしたが、それに加え、『いまの生活に必要なお金をどうするのか?』ということへの関心も広がっています」と、経済アナリストの森永康平氏は語る。  
そのため、いままでも投資に関心の

**Point**  
株式だけでなく、ほかの投資対象にも資金を分散することが大切です



なかつた人が、新たに株式投資を始めるケースも増えているという。来年1月には新NISA制度も始まるので、株式インデックス投信の積立などを始めようとする動きが広がっているのだ。

森永氏は、「投資への関心が高まること自体は悪くありません。ただし、投資対象を株式だけに絞ってしまうのはリスクが大きいです。株式インデックス投信なら個別株よりもリスクは低いだろうと思いがちですが、ひとたび株式相場が崩れると、たちまち資産を大きく減らしてしまふ恐れもあるからです」と注意喚起する。

最近、株式投資を始めた人の多くは、過去10年間の比較的好調だった株式相場しか記憶に残っていない。しかし、「仮に20代の人が株で老後資金を形成するには、40年間は投資を続けなければなりません。過去40年を振り返ると、バブル崩壊やリーマンショックなど、いくつもの大きな危機が発生して株式相場が大崩れ

しています。相場が好調だった過去10年だけを切り取って過度な期待を抱き、株式だけに投資するのは、危険極まりないということです (森永氏)。

**安心な資産運用のために検討したい選択肢の1つ**

では、どうすればいいの?

森永氏が提言するのは、価格変動リスクが大きな株式だけでなく、ほかの投資対象にも資金を分散すること。その選択肢の1つとして「個人向け国債」を資産運用ポートフォリオに組み入れるのも方法だと思えます」とアドバイスする。

国債とは、国が発行する債券 (借入証書の一種) のこと。通常は国が銀行などから資金を借りる際に発行するが、「個人向け国債」は、文字どおり、個人でも購入できるようにした金融商品の一種だ。

「個人向け国債」を購入すると、発行体である国から定期的に利子が支払われます。いまは低金利の時代なので、利率は決して高くはありませんが、それでも銀行預金に比べれば有利です。そのうえ、国が発行するので、企業が発行する社債と比べてデフォルト (債務不履行) リスクが極めて低く、元本割れの心配がない点、金利の下限が年率0.05%に